

【記者からの質問】

<令和5年7月 九州北部豪雨災害について（その1）>

NHK／山間部中心に土砂災害、河川の護岸被害が相次いだ。復旧・復興に向けての県の取り組みへの知事の所感を。

知事／今回は施設災害が非常に多かった。道路や護岸の復旧、生活支援が急務のため、3つの支援グループで対応している。過去の経験頼みではなく、今の豪雨災害への対応が大切。早く日常が取り戻せるよう全力で取り組む。

治山事業、砂防事業などのハード面の整備は、計画箇所が5000か所ほどあり、優先順位をつけ年間10か所程度進捗している。計画箇所以外にも起こる可能性もあるし、整備にも限界がある。

県民の皆さんと行政機関が連携し、命を助けるための避難行動に取り組みたい。8～10月の危険が見込まれる状況でも、被害を最小限に留めたい。

<玄海原子力発電所について（その1）>

NHK／明日の原子力規制委員会の現地視察は、山中委員長就任後初めて。住民の安全を守る立場から、規制委員会にどのような考えを伝えるのか。

知事／5年前にも来られたと記憶している。その際、原子力災害の恐ろしさ、安全のために原子力規制委員会が、独立機関として忖度のない審査をする重要性を強く訴えた。

規制委員会は、安全性を厳正に検査、審査する重要な仕事。人事が変わっても、その部分だけは変わらないということと、個別の政策提案もお伝えする。

<九州佐賀国際空港について>

西日本新聞／今月からスプリングジャパンの運航が、国内線は羽田便のみとなった。成田便の運航再開の見込みはあるのか。今後の対応は？

知事／スプリングジャパンのこれまでの努力に感謝する。しかし、コロナ禍で運航主体をはじめ様々に変化。春秋グループの経営方針が、中国路線を中心に行っているため、存続は難しいとの判断をされた。上海便は再開の予定。スプリングジャパンの対応を見つつ、中国便、西安便も再開に向けて努力をしていく。

<西九州新幹線について>

西日本新聞／国土交通省との協議開始から3年経つが進展はなく、最近では開催頻度も落ちてきた。西九州新幹線が現行のリレー方式のままなら、「幅広い協議」を継続する意味はない。県の考える協議継続の意義とは？

知事／協議を打ち切る理由もない。もともと、在来線を活用し、規格を変えた新幹線が走ることを前提に合意していた。フル新幹線は全く別の枠組みで過去の延長線上にないもの。しかし、その情報が伝わっていない。新鳥栖まで15分程度でつながる利便性をなくすうえ、財政負担も1,000億円以上になる見込み。それを県で負担して進めていくのは現実的ではない。長崎県、国、JRの側から、検討の希望があるため、国交省の勧めに応じて「幅広い協議」を継続している。そのため、国から新しい提案がなければ、動きようがない。

ただ、その協議を終えることは考えていない。むしろ継続しながら、国や森山委員長と話をする機会の中で打開策が見え、新たな局面になる可能性はある。

<オスプレイについて（その1）>

佐賀新聞／九州防衛局長との本日の面会で、知事が伝えたいこと、新しい局長に求めたいことは？

知事／県側の担当だった前任の進政策部長と伊藤局長とは、住民と地域を大切に、丁寧に進めていく共有認識ができていた。人が変わってもそれは崩さず、丁寧に合意していかなければいけない。江原局長にもその旨でお話しする。

<令和5年7月 九州北部豪雨災害について（その2）>

共同通信／災害現場で話を聞くと、崩れてもやっぱり避難しなかったとか、今後も避難しないと思うといった声がある。行政側として実効性を高める方法へのお考えはあるのか。

知事／本当にもどかしい問題。中山間地域にお住いの皆さんの気持ちは、分からないでもない。夜間の避難は、難しい課題だ。行政がやるべきことは、危険度の強さの精度を上げること。土砂災害警報の精度を上げて市町に提供し、市町が避難指示の区域を限定的にかけられるようにする。それに対する共通認識を住民と行政が、ともに持ちたい。

先ほど、どこが崩れるか分かりませんと正直に申し上げた。住民の皆さんが、避難すべきかどうかを自ら判断できる環境を行政がつくらないといけない。大雨のときは、寝る場所はどこが安全かを家族で考えてみるだけでも違う。豪雨災害を恐れ、その中でできることを皆さんが考え、行政はそれができる環境を整えられるよう全力を尽くす。

<SAGA アリーナについて>

朝日新聞／SAGA アリーナでは、一通りイベントが開催された。見えている課題や手応えを教えてほしい。

知事／順調なスタートを切った。観客からは、ライブハウスのような声があ

る。アーティスト側は、観客の声援が近く感じた。何より、裏方の皆さんの評価が高い。空調の音がなく、音響が抜群だとのこと。先駆的なアリーナを造ったと実感している。

この素晴らしい施設の効果を、いかに県域に波及していくのか。お弁当屋さんが奮闘している。街中の店舗、飲食店街、交通機関へ波及してほしい。宿泊施設の不足が、一番の問題点だと思う。ホテルや宿泊施設の建設を官民一体で進めたい。

朝日新聞／人気アニメ「推しの子」で、背景に SAGA アリーナが使われた。佐賀県の認知度が広がっているのではないかと。

知事／B'z や NiziU が、全国縦断コンサートの皮切りに佐賀を選んだインパクトは大きい。佐賀には、ライブハウスアリーナがあると全国に告知したい。バックヤードとアーティストに SAGA アリーナの良さが広がり、やがて特別な場所としての位置づけになるのではと野心を描いている。

< 玄海原子力発電所について (その2) >

時事通信／福島第一原発の処理水の海洋放出計画に、既に中国は海産物の輸入規制を始めた。海洋放出計画に対する知事のお考えを。

知事／国が、しっかり説明することに尽きる。科学的根拠に伴うものなので、国民に対し身近な言葉を使って分かりやすく説明してほしい。それを受け、国民がどう考えるのか、中国や韓国といった近隣諸国がどう考えるのかということ。

< オスプレイについて (その1) >

佐賀新聞／オスプレイが配備されると、民間機より自衛隊機が滑走路を占有すると思う。その中で、民間空港としての発展のために何を大切にしているのか。また、防衛省に何を求めるのか。

知事／民間空港が第一義だ、と防衛省に対し訴えてきた。この空港の最も優先すべきことは、民間空港だということ。それは、ハードとソフトの両面で。

佐賀空港は、地理的優位性からインバウンドが近隣各県の空港より多かった。福岡空港は、九州の中心空港だが限界がある。九州全体の発展を考えたとき、福岡空港と佐賀空港が連担して拠点となるべきだと確信している。その意味から、今後も路線誘致、滑走路の延長と並行誘導路、管制の問題が充実するよう取り組みたい。

SUMUCO は台湾との関係も強く、有明海沿岸が半導体を含めた産業関連地として伸びる可能性が高い。物流拠点としても可能性がある。

また南海トラフが起きた場合、災害の少ない佐賀県が災害支援拠点になる。防衛省とも連携し、その役目が果たせるようにしたい。このように、佐賀空港は、開港当時には想定しなかった空港になる。未来に向けて、空港の将来像を形づくりたい。